

<論 文（教科教育学）>

## 「現代社会」の授業実践事例に関する理論的考察

山 岡 昭 吉

### 要旨

近年、社会問題に発展することが多い、大企業の不祥事をテーマにして授業実践を行う例を検討する。生徒による主体的な調査活動の後に、調査内容の整理、原因分析、問題解決のための対策案提出などの小集団討議を行わせる。この過程で、視点を一般市民から、事業者、そして問題発生時の当事者としての従業員へと移行させる。視点を利害関係が異なる立場に移行させることによって、現代社会への認識を深めさせるとともに、主体的に考え公正に判断させていく。この間の指導方法の理論的枠組みを提示する。

### キーワード

授業実践、「現代社会」、企業の社会的責任、公民、手順書、学習指導案

### 目次

1. はじめに
2. 授業計画
3. 学習指導案
4. 指導内容・手順
5. 成果ならびに反応
6. 評価と課題
7. 指導内容・方法に関する考察
8. おわりに

## 1. はじめに

現代社会の認識を通して、主体的に考え公正に判断するとともに、自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民としての必要な能力と態度を育てることが、「現代社会」の目標になっている。

ここでは、「現代社会」の「個人と企業の経済活動における社会的責任」（『高等学校学習指導要領第2章第3節公民』）の学習項目における授業実践事例を対象に、考察をすすめる。

近年、社会問題にまでに発展することが多い、大企業の不祥事をテーマにした授業実践を行った。生徒による主体的な調査活動の後に、調査内容の整理、原因分析、問題解決のための対策案提出などの小集団討議を行わせたものである。視点を事件、被害者、加害者、経営者、従業員、一般市民などへと移行させる。

視点を利害関係が異なる立場に移行させることによって、現代社会への認識を深めさせるとともに、主体的に考え公正に判断させ、加えて、将来は仕事に従事する者としての自己を捉え直させ、人間としての在り方生き方について考える力を養わせることを目指す授業実践事例について考察を進めていく。

## 2. 授業計画

授業計画は次のように行う。学習指導案はその後の項で述べる。

### (1) 学習指導対象

「現代社会」の授業は、2単位・週2時間・50分授業で、生徒数は40人である。

### (2) 学習教材

教科書は、一橋出版の『高校現代社会』（二谷貞夫他著）を使用している。

### (3) 学習指導計画

現代社会で現実的に生じている社会的な問題を対象にして、生徒の生活から身近な問題として主体的に取り扱い考えさせるとともに、良識ある公民としての必要な能力と態度を育てることを目指す。

学習対象としての社会的な問題を、企業の不祥事や社会的責任をテーマにして、被害者、加害者、経営者、従業員、一般市民として、自分の問題として主体的に考えさせる。

学習指導の方法としては、「現代社会」の教科書である『高校現代社会』の「企業のはたらきと社会的責任」の項目を自主研究し発表させ、討論をさせた。

### 3. 学習指導案

「企業のはたらきと社会的責任」

「現代社会」学習指導案

(1) 単元 企業のはたらきと社会的責任

(2) 単元の目標

- 1) 今日の生産・販売活動の担い手は企業であり、その多くが利潤の追求を目的とする私企業であり、最も重要な地位を占めているのが株式会社であることを理解させる。
- 2) 企業は生産を高め利潤を追求するばかりでなく、雇用促進や技術開発などを通して地域社会や経済社会の発展に寄与する社会的な役割をもつことにも関心をもたせる。
- 3) 企業が経済秩序の維持や資源循環型経済社会の重要な主体である点に触れながら、これからの社会における生産者としての在り方について考えさせるとともに、公民である企業内従業員として、経営者として、どうあるべきかについて、考えを深めさせる。
- 4) 発表学習によって、調査の仕方、資料の収集、課題の追求、意見の出し方、発表の仕方、討論の仕方・進め方・深め方などを、主体的な学習の過程で身につけさせる。

(3) 単元の構成と時間配当

- ・ 企業と株式会社 (1 時間)
- ・ 企業のはたらきと社会的責任 (1 時間) ・ ・ 講義

・企業のはたらきと社会的責任（1時間）・・・1事例目・・・本時

・企業のはたらきと社会的責任（1時間）・・・2事例目

・大企業と中小企業(1時間)

(4) 本時の主題            企業のはたらきと社会的責任

(5) 本時の目標

1) 企業は、生産者として安全で良質の製品を安定して、消費者に提供する社会的責任を負っている。また、私たちに就業先を提供し、雇用者としての社会的な役割も担っている。公害や地球環境問題が深刻化している現代において、循環型社会をつくる上でも企業のはたす役割と責任が増している。地域経済の活性化や地域の文化を支える活動などの役割も期待されている。これらの社会的責任と役割については、前の授業で解説した。本時では、企業がこれらの社会的責任と役割をはたすためには企業情報の開示をはじめ、経営者の倫理の自覚、従業員の適切な対応などが求められることを理解させる。

2) 不祥事の事例で、企業の社会的責任と役割の諸側面に関心を持たせる。

3) 発表学習によって、調査から発表・討論までの種々な方法を主体的に学習させる。

4) 各班や全体との討論を通じて、群盲象をなでる状態から、協働によって事例の全体像を完成し、問題を解決していく対策案の作成へと続く学習の楽しさ・面白さを実感させる。

5) 企業経営者の立場や従業員などの立場になり、考えを深め、意見を交わす、討論を通じて、公民としての在り方について、主体的に現実的に考えを深めさせる。

(6) 本時の展開

(7) 注意

1) 発表学習の趣旨や仕方の指導は、本時・発表学習の1ヶ月前より、順次、授業中にて、説明を行う。

「現代社会」の授業実践事例に関する理論的考察 山岡

	指導項目	学 習 活 動	指導上の留意事項
導入・5分	発表学習の開始前確認	発表学習の趣旨・要領を確認する 完璧な発表よりも、皆で補足し完成させていくことの重視を確認する 授業前配布のプリントを確認する 「発表・評価感想票」の記入法の確認	班発表自体よりも、後の全体討論の進展に重点を置くことを確認する 討論とディベートの違いを強調する 時間をかけすぎないように注意する
	発表20分	1.流れ図（ごく簡単に大筋だけ） 流れ図で不祥事の流れを概説する すでに板書してある関係図で主な関係者や出来事などを簡単に解説する 事例：某乳業の不祥事の流れ 2.関係図（丁寧に肉付けする） プリント1「調査項目リスト」にある、「C 影響」「D 直後の対応」「E 原因分析」「F 問題点」「G 総合意見・感想」などの項目を説明しながら、不祥事に関する全体像を理解できるように、順次細かく分析していく。 発表者の配布資料の原因分析などの考察の流れに沿って、発表ならびに聴衆生徒各自が確認する 事例：某乳業の事件と関係者の図 3.対策案（丁寧に） それぞれの関係者の立場における再発完全防止策を提示する。発表する生徒自身の重要度による優先順位も示す。不祥事を発生させてしまう仕組みや問題点に着目し、対策案を考えさせる 4.「重要な用語」（ごく簡単に） 簡単に用語を説明する 5.まとめ・意見・感想（ごく簡単に） 総括として又は強調として伝える	詳細な流れ・段階にならないよう、発表者に事前に注意する 重要な関係者や出来事のみを簡単に説明し、時間をかけすぎない 概略をつかませるにとどめる 不祥事的全容や関係者相互の関係が理解しやすいように、加害・被害、権限・実権の強弱、友人・素人などの対立軸で関係を整理するように指導する 原因分析や問題点が聴衆者に明確にわかるように、重要な所は強調して表示するように発表者に助言する 関係図の理解による大枠における全容把握が重要であることをわからせる 発表する生徒自身が考える対策案で良いことを明言する 現実的な再発防止策を列挙させるように留意する 時間をかけすぎないように注意する 詳細は後でプリントを読んでもらう 特に強調したい意見や感想を伝えるように指導する
	小集団討論10分	各班で討論し、隠れた原因分析や具体的段階的対策案など複数を考え、再発防止への現実的思考を深める。記入した「発表・評価感想票」を基にして、事実関係や認識や理解が揃っているかなどを、各班内で確認する。発表者はこの間に、重要な事柄を中心に内容を整理する	他の生徒の視点や意見を十分に吸収し、「発表・評価感想票」に追加記入する。補足したい点や聞きたい点などを整理させる 聴衆側生徒の各班において討論させる
	質疑応答・全体討論10分	各班や全体との質疑応答や討論をしながら、原因分析や対策案を吟味し、実現可能性ある対策案を考察する。（1 事実確認の質問 2 原因・対策に関する質疑応答 3 ベテランならびに若手社員、一般社員としての対策 4 再発完全防止策を網羅するための質疑応答） 聴衆側の生徒の多くの意見を吸収しながら、黒板の関係図などをより完成したものに近づけ、事件の大枠の全容を把握させ、各関係者の立場からの、再発完全防止策の意見集約につなげる 各関係者の立場において、公民として本来あるべき、あるいは行うべき処置とは何かについて考えさせるこれらの考察から、誰が誰のためにどういう手順で行うかなどの対策案を具体的に検討する	発表する生徒には、確実にわかっている点と不明瞭な点、自己の意見などを明確に区別して伝えることと、質問のすべてを答えなければならない、と力まないこと、新しい視点や異なる意見などは、一理あることを認めることを注意する。 発表はあくまでも、問題解決のための基礎としてのたたき台であることを留意させる。 発表者への追及ではなく、補足やフォローとして、補足したい点や聞きたい点などを聞く。次に、原因分析や対策についての重点を移し、再発完全防止策を検討する発言をする。他人事としてではなく、被害者として、加害者として、責任者として、どうあるべきか、どう対処すべきか、と検討を深めさせる
	まとめ5分	講評 発表内容の補足説明と評価、討論の評価と助言。生徒からの助言・提言を聞く。不祥事を生じさせてしまった企業の社員としての対応策ならびに再発予防策、そして一般人としての予防策について、公民の視点から聞く。	発表した生徒の良い点を丁寧に評価し、聴衆側の生徒の良かった点も言う。公民・市民として望ましい対処について、考えを深めさせる。

- 2) 発表学習は2回・2班が行う。すべての班に準備させ、当日の朝に担当班を発表する。

#### 4. 指導内容・手順

発表の仕方として、次のように、調査の仕方から発表・話し合いまでの参考となる手順書をプリントして配布し、指導した。プリントして全生徒に配布したのは、以下のものである。(1) 班の構成と発表方法、(2) 発表の手順の、A発表の準備作業、B発表時の要領、C発表後に行うこと、(3) 調査項目、(4) 調査検討資料作成時の方法論的原則、(5) 調査の仕方と意見の出し方、(6) 聴衆者(発表班以外の者)に対する指導内容・手順。

##### (1) 班の構成と発表方法

A班の構成・・・原則として1班最大2名。

B発表方法・・・授業前で、資料の配付を終了させ、発表班以外の者の予習をさせる。

- ・授業開始から20分間で、1班で1不祥事の事例を発表する。
- ・その後の10分間で、小集団で討論をする。
- ・次の15分間で、原因分析や対策案などの質疑応答と全体討論をする。
- ・最後の5分で、全体の講評を行う。

##### (2) 発表の手順

A発表の準備作業—下記の配布用プリントを作成すること。

(下記の1)調査項目から5)重要用語まで)

- 1) 調査項目—最低限、調査して欲しい項目が列挙してあり、その項目にしたがって調べ、それらの項目の内容を埋めた、事件の概括を記したもの。

(後述の、(3)「調査項目」で列挙された項目のことである。)

- 2) 流れ図 ー・不祥事事件の節目を矢印でつないで、大筋の流れを示したもの。

書き方：・ストーリー・物語の展開を、文を2行程で各段階をまとめ、矢印で各段階の文をつないで、流れを示す。事件の大きな展開の節目・場面・起承転結などを記する。

- ・プリントの上部上方5行程空白をあけてから、書く。  
不祥事の予兆やヒヤリハットなどを考え、後で書き込む。
- ・下部下方4行程余白をあける。今後の展開の予測などを、後で書き込む。

- 3) 関係図 ー・登場人物相互の関係（相互依存・敵対的ライバル・支配従属など）を図解したもの。

- ・関係のあるものを細大漏らさず図に示すことに重点がおかれる。

書き方：・事件の中心ならびに事件現場をプリントの中央に書き、周囲に余白をあける。

- ・上方向に書くのは権限がある者、下方向は権限がない者、左方向は加害原因が強い者右方向は被害者
- ・事件加害者の不祥事企業の左横には同業他社を、事件被害者の右横には被害者と同じ条件の隣人などを、配置する。

- 4) 対策案 ー・再発完全防止のための対策案とともに再発後の迅速な措置などを各種考える。

後述(3)調査項目のF問題点、を参考に考える。

誰に対して、誰が何を基準に、どう行うのか、など。

- ・関係者すべての個々の立場になって、対策案を考える。
- ・具体的にも漠然的にでも考えられないときは、新聞記事などの引用だけでも良いが、その場合は解決策の数を多くするように努力する。

- ・対策が実際に実施できるか否かを、各当事者の立場と背景を考えて想像してみる。

次に、より実施可能なものを選択する。

- ・その対策通り行われたら、どういう結果がでるか想像してみる。
- ・関係プレーとしての仕組み・システムを考える。
- ・最後に、従業員として、公民として何をすべきか、どうありたいか、についての意見・感想を付す。

5) 重要な用語 — 現代用語辞典などの各種の辞典・辞書や参考書物で調べる。  
そのまま転記しても良い。

B 発表時の要領 — 実際の発表時の構成・手順

(プリント配布・授業前、発表20分、小集団討論10分、質疑応答・全体討論10分、講評5分)

#### 1) 授業前に行うこと

( $\alpha$  発表する生徒)

- ① プリントを配布する — 授業前に配布を終了し、予習の時間を与える
- ② 関係図を板書する

( $\beta$  聴衆側の生徒)

- ① 配布されたプリントに眼を通す。  
関係図を理解することを中軸に資料プリントを読む。
- ② 「発表・評価感想票」の設問にメモ程度に簡単に答えながら、  
事実認識を広げ、原因・問題点・対策などの考えを深めていく。

#### 2) 授業開始後の発表時

( $\alpha$  発表する生徒)

- ・用意したプリントをもとにして発表する (20分程度)
- ・分かりやすく、簡潔に説明する。
- ・黒板の図解・関係図を中心にして説明を行う。
- ・発表時の注意点：原因分析や対策案を重点的に説明し、可能なら最



善策・代替案など高次勧告文レベルのものを提示する。

- ① プリントの「流れ図」で、事件の流れの概略を説明する。(5分程度)
  - ・概略として、大づかみな流れを流れ図で説明するのが主な目的である。
  - ・流れ図の矢印ではさまれた各段階の文では、黒板の関係図で関係箇所を指し示し、登場人物や出来事などの関係性その他について解説する。
  - ・流れ図の流れの段階を簡潔にする。あまりにも詳細になり過ぎないように注意する。
- ② 黒板の「関係図」で、関係者や発生事象の関連などを解説する。(10分程度)
  - ・上記の、1「流れ図」で事件の概要を理解させた後で、この「関係図」による解説をする。
  - ・プリント「1 調査項目リスト」にある、「C 影響」「D 直後の対応」「E 原因分析」「F 問題点」「G 総合意見・感想」などの項目を説明しながら、不祥事に関する全体像を理解できるように、順次細かく分析していく。
- ③ 「対策案」で、それぞれの関係者の立場における再発完全防止策を提示する。(7分程度)

発表する生徒自身の重要度による優先順位も示す。
- ④ 「重要な用語」プリントは、聴衆者である生徒各自の理解のための参考にしてもらうためのもので、発表者はあえて発表時に丁寧な説明をしない。
- ⑤ まとめ・意見・感想 — 特に強調したい所、意見、自分が感じたこと。(3分程度)

業界や企業の仕組み、企業内業務、メカニズム等々に触れることができることを話す。

( $\beta$  聴衆側の生徒)

発表する生徒の説明を聞きながら、次のことを行う。

- ① 配布されたプリントに眼を通してながら、  
黒板や配布プリントの関係図などで事実関係などを丁寧に確認する。
- ② 「発表・評価感想票」の設問に応えながら、獲得した事実認識を基に  
詳細に思考を広げつつ、自分の問題として考えを深め、原因・問題  
点・対策などについての分析を掘り下げていく。
- ③ 考えた種々の視点や意見などを「発表・評価感想票」に記入してい  
く。

- 3) 小集団討論 — 各班で討論し、隠れた原因分析や具体的段階的対策案  
(10分) などを複数考え、再発防止への現実的思考を深める。

( $\alpha$  発表する生徒) ・質問に答えられるように、再度手元の資料を確認し、  
わかる所と不明な所などを整理しながら、待機してい  
る。

( $\beta$  聴衆側の生徒) ・記入した「発表・評価感想票」を基にして、事実関  
係や認識や理解があっているかなどを、確認する。  
・他の生徒の視点や意見を十分に吸収し、「発表・評  
価感想票」に追加記入する。  
・補足したい点や聞きたい点などを整理する。

- 4) 質疑応答・全体討論 — 各班や全体との質疑応答や討論をしながら、原因分析や  
(10分) 対策案を吟味し、実現可能性ある対策案などを下記  
の順で考察する。

- ① 事実確認の質問
- ② 原因・対策に関する質疑応答
- ③ ベテランならびに若手社員、一般社員としての  
対策
- ④ 再発完全防止策を網羅するための質疑応答

- ( $\alpha$  発表する生徒)
- ・確実にわかっている点と不明瞭な点、自己の意見などを明確に区別して応える。
  - ・新しい視点や異なる意見などは、一理あることを認め、黒板の関係図か黒板の隅の余白にでも、意見の一部を記す。
  - ・意見を聞きながら、自分でも補足しながら、黒板の関係図をより精緻化し完成図に近づける。
  - ・質問のすべてを応えなければならない、と力まないこと。発表はあくまでも、問題解決のための基礎としてのたたき台であることを忘れないこと。
  - ・聴衆側の生徒の意見などの多くを吸収しながら、黒板の関係図などをより完成したものに近づけ、再発完全防止策の有意義な意見集約につなげることに本旨があることを十分理解する。

- ( $\beta$  聴衆側の生徒)
- ・「発表・評価感想票」に記入したものを基に、発表者への追及ではなく、補足のフォローとして、補足したい点や聞きたい点などを聞く。
  - ・次に、原因分析や対策について重点を移し、再発完全防止策を検討する発言をする。

5) 講評

(5分)

教員

- ー 発表内容の補足説明と評価、討論の評価と助言。
- 生徒からの助言・提言を聞く。
- ・発表した生徒の良い点を丁寧に評価し、聴衆側の生徒の良かった点も言う。
- ・不祥事を生じさせてしまった企業の社員としての不祥事発生後の対応策ならびに再発予防策、そして一般人としての予防策について丁寧に聞く。
- ・公民・市民として望ましい対処について、考えを深めさせる。

C 発表後に行うこと

- ( $\alpha$  発表する生徒) ・配布したプリントをより詳細に完成させ、後日、再提出する。
- ・特に、関係図と対策案、原因分析、問題点などの項目に注意を集中させ、丁寧にプリントを完成させること。
- ( $\beta$  聴衆側の生徒) ・発表直後に、記入済みの発表・評価感想票を提出する。

(3) 調査項目 ・発表や配布プリントの基となるデータ資料収集項目

- A 記事 ・日付、新聞社名を明記して新聞記事そのままをプリントなどに糊付けする。記事のコピーやインターネットからの印刷出力したものでも良い。読める程度の大きさにすること。
- ・できる限り、記事内容の要約を時系列的に列挙する。
- B 事件全容 ・事件についての全体の流れを時系列的に列挙し、流れ図を作成し、整理していく。
- ・当事者間の関係と利害得失などを中心に、当事者をはじめ関わる者すべてを列挙して、相互の関係や利害得失などを関係図を書いて、事実関係を整理する。
- ・新聞記事やネットからの記事などをそのまま転記しても良い。
- ・最小公倍数ではなく、最大公約数としての情報を収集する
- C 影響 ・現在生じている各方面への影響。今後、予想される出来事など。
- ・わが国全体が取り組むべき問題として、深めるとともに、我々の日常生活に結び付けて考える。
- D 直後の対応 ・不祥事発生直後あるいは、早い段階での企業側の対応の内容。
- ・迅速な処置をし、各方面への配慮やリスク対応の仕組みがで

きていたか、についても考える。

- E 原因分析
- ・ 過去の出来事、制度・組織・風土的背景または不祥事発生的前提となる条件などの事実確認をし、次に推論する。
  - ・ 木の枝・幹・根へと、背景などをさかのぼることによって、個々の原因を考え、対策などを思い浮かべる。
  - ・ B 事件全容の時に作成した流れ図と関係図を再構成しながら、原因を分析し、利害や権限の関係を考え、問題の背後にある構造的な仕組み・システムなどを掘り下げて考える。
- F 問題点
- ・ 可能な限り当事者の利害得失を中心にして、当事者や関わるすべての者のそれぞれの立場になって解決すべき問題について考え、再発を完全に防止するために解決しなければならない問題点を整理する。

G 総合意見・感想

- ・ 意見や考え、感じたことなどを列挙していく。
- ・ 公民としての視点を考える。

(4) 調査検討資料作成時の方法論的原則

A 追加記入の原則

- ・ 考えたこと、気がついたことなどを追加記入していくこと。
- ・ 前にさかのぼって、すでに前に書いてあることを訂正または整理統合をしない。訂正または整理統合するときは、その旨を追加記入すること。

B 記事の引用第1・私見第2の原則

- ・ 各項目に該当する新聞記事がある場合は記事の本文を引用するのが第1段階、
- ・ 各新聞の記事を比較検討し、考えた自分の意見を書くのが第2段階とする。
- ・ 引用の段階で思いついたことがあれば、書いても良い。

C 流れ図、関係図の用紙は1枚ずつ、他の調査項目のプリントは枚数無制限の原則。

- ・図は中央に書き、用紙1枚に書く。
- ・用紙の上部と下部に余白を用意する。

#### (5) 調査の仕方と意見の出し方

##### A 調査の仕方

- 1) 選んだテーマの関連記事をインターネット、新聞、雑誌などから集める。
- 2) まず共通事項を確認する。

「1 調査項目」(特に「B 事件全容」「C 影響」「D 直後の対応」の項目)、「2 流れ図」、「3 関係図」、に使えるか、などを考える。

- 3) つぎに異なった点・変化した点に注目する。

「1 調査項目」(特に、「E 原因分析」「F 問題点」「G 総合意見・感想」の項目)、「3 関係図」の補足追加記入、「4 対策案」に使えるか、など考える。

##### B 意見の出し方

- 1) ネットや新聞の記事に加えて、雑誌・単行本のタイトルや内容などをメモする。特に権限の強弱関係、金銭授受などの流れに注目する。
- 2) 「B 事件全容」に出てくる当事者・関係者の関係図(できるだけ自分自身もいれる)をつくる。これを横軸または正面図と考える。
- 3) 「E 原因分析」で出てきた流れ、歴史的経過や組織的メカニズムを流れ図などを簡単に書いてみる。これを縦軸または側面図と考える。
- 4) それぞれの当事者の名称を横に列挙し、つぎに得な点、損な点、そして対策などを縦に3区分して表をつくる。

- ① 被害者や一般消費者の立場で、訴訟する視点で、企業側の作為や無作為、業界監督官庁、企業経営者、担当従業員等々、を洗いざらい列挙する。

- ② 被害者に身近な者の立場で、再発時に被害を被り易い立場で考え、再発を完全に防止する方法、手続き、役割分担などを考える。
- 5) 流れ図や関係図を眺めながら、思いつくことをできるだけ単語か単文にして、上記4)の表や流れ図ならびに関係図に埋めていく。
- 6) 2つ、3つと意味がつながってきたら、「C影響」「E原因分析」「F問題点」「G総合意見・感想」の項目、「2 関係図」、「3 対策案」などにどんどん追加記入していく。
- (6) 聴衆者(発表班以外の者)に対する指導内容・手順
- 発表の聴講や討論時のメモならびにレポートとして、次の配布された設問票に答え、提出するように指導した。

発表・評価感想票

( ) 班 テーマ・企業名:

発表者: 年 組 番 氏名

記入者: 年 組 番 氏名

I 発表の評価・感想

(良い点) ○ (要改善疑問点) ●×? (改善方法提案) ⇒

1 配付プリントで気づいた点

- 1) 調査項目リスト
- 2) 流れ図
- 3) 関係図
- 4) 対策案
- 5) 用語

2 発表全体の意見・感想(手順、図、解説、説明など)

II 発表・内容の意見・感想

- 1 この不祥事を知っていますか(ゼロ、少し、多少、かなり)

(分析)

- 2 関係者・登場人物で抜けているものは、  
あるいは追加すべきものは、
- 3 被害者の立場で、責任あるものすべてを、細大漏らさず  
訴えるとしたら、追加すべきものは、
- 4 被害者に近い立場で、自分も再発被害にあう可能性が  
ある場合、誰にどうして欲しいか、
- 5 原因の第一と、第二は
- 6 解決すべき問題点は
- 7 事実関係など、確かめたい点は
- 8 疑問な点・異なる点は  
9 全体的に、付け加えたい点は
- 10 今の仕組みのままだと楽なのは、又は大変なのはどこか、

(対策)

- 11 現場のベテランリーダーならどこから着手するか
- 12 若手社員なら何をすべきか
- 13 同業他社の防止策は、
- 14 自分の生活で使う・かかわる場合の対策は

(発表・討論全体)

- 15 理解しやすかった点は
- 16 難しかった点は
- 17 面白かった点・関心をもった点は
- 18 全体的に良かった点は
- 19 勉強になった・ためになった点は
- 20 内容の改善点（こうしてもらった方がいいなあ、  
と思うような意見・感想）
- 21 討論して印象に残った点、良かった点、改善点、改善策は
- 22 他に気づいた点は



## 5. 成果ならびに反応

- ① 不祥事が生まれた背後にあるメカニズムや不備な仕組みを抽出し、現在も引き続き再発する危険性は存在しており、ニュース報道即問題解決とはいえないことが理解できたようである。  
加害者以外にも再発防止に努力すべき関係者がいることがわかったようである。
- ② 企業の不祥事がニュースよりも身近なものとして考えられるようになった。
- ③ 不祥事の問題を自分の生活と結び付けて考えるようになった。
- ④ いろいろな視点・角度からの質問や議論が多かった。
- ⑤ 不祥事について、多角的に諸々の条件、仕組みを考えるようになった。
- ⑥ 質問内容が専門的に高度なものになり、たまたみかけるように次々と深まっていく質問が多くなった。

## 6. 評価と課題

- ① 生徒の発表に対する評価は、テーマそのものの難易度、各項目への記入量とその質、意見の質と量、理解の深さ、テーマへの主体的な関わり、配布プリント・発表態度・理解度・選択記事・感想など多岐にわたった評価項目で評価した。
- ② 今後の主な課題は、評価の体系を整備すること、特に聴衆側の生徒の質問や意見を、その内容の質も含めて、全体の討論への貢献の視点からの的確に評価する方法を体系的に考えることがあげられる。

## 7. 指導内容・方法に関する考察

特に、重要と思われるところを考察する。

- (1) 学習方法としての発表学習において、特色ある方法を行った趣旨  
特色ある発表学習を行った趣旨には下記のものがあげられる。

- ・発表・報告者にとっては、発表内容は完成したものとしてよりも、たたき台として、議論や話し合いの土台として位置づけられるため、完璧を期することがないように注意した。
- ・発表・報告の過程で、一つの結論に導くために意見を戦わす議論ではなく、多くの角度からの事実認識を得て共通認識を獲得し、多くの立場の意見を認識し、種々の視点からの問題解決方法を探るために、あえて話し合いの方法をとった。種々の意見を受容し取り入れ、発表内容を生徒全員で充実させ、完成させることによって、より多くの立場の意見を受容し、広い視点で公民としての考え方を学習していくことを目指した。
- ・発表学習と話し合いの過程で、情報処理に関する各種の技術や態度を生徒全員が共有し、身につけていくことを最も重視した。
- ・発表者と聴衆者が敵対的に対立し質疑応答するのではなく、問題解決という課題へ、同一方向に向かって意見を出し合い、話し合い、対策案を協働して考えていくことに主目標をおいた。
- ・魔女狩りのように個人としての犯人を捜し処罰することが目的ではなく、不祥事を発生させてしまう業務遂行内容や仕組みについて検討し、再発を完全防止する業務遂行手続きならびに再発防止チェックに関する、仕組み・システムならびにチームワーク形成について、主体的に考察させ、防止策を提案させるように指導した。
- ・防止策への探求過程で、ベンチマークの方法などの各種手法や考え方を学習させた。
- ・範例学習の考え方の基において発表学習を行わせ、ブレインストーミングの手法で問題解決のための話し合いの手法をとった。(注)

## (2) 発表の手順で特に留意したこと・考え方

発表学習の際に特に注意した点について、次に述べたい。

### A 発表の準備作業

- 1) 調査項目から 5) 重要な用語までの、準備作業として用意すべき配布

プリントでは、2) 流れ図と3) 関係図の作成が、発表者にとって困難を感じるものである。この2つの図は、事件の基本的な枠組みと全体像をとらえ、問題解決の前提としての共通認識を獲得するには重要な図である。だが、指導においては、発表者に完成した図を最初から作成させることを課するのではなく、基本的なことを踏まえた6～7割方の進捗度のもので良いことを指示した。

この指導は、この実践事例においてはきわめて重要なものである。発表学習において発表する生徒と聴衆である生徒を対立の関係としてとらえた発表学習の形態をとるよりも共に同じ目標に向かう者同士の補完し協働し協力し合う関係として、発表し、共にあらゆる立場・角度から討論し話し合い、問題を解いていかなることができる。問題解決のための討論・話し合いを行うには、事件・事実に関する基本的な枠組みの共通認識の獲得が前提として必要であり、ともに考え、補足事項を付け加えていくことによって、共通認識を獲得していき、また多くの関係者の立場を含んだ広い視点から全体像をとらえることができる。生徒がそれらの過程を経ることによって、公民だけが単独に独自に存在するのではなく、利害関係など異なる立場の関係者に、公民としてのあるべき立場と行動が重層的に求められていることをより効果的に理解させ実感させることができる。

また、発表する生徒自身の精神的負担を軽減し、調査過程を楽しむ余裕を与えるとともに、聴衆者である生徒が問題解決の討論・話し合い前の共通認識獲得段階で参加しやすくなるため、問題解決の話し合いがより実りあるものになる。

この授業実践の主目標は、発表する生徒の発表を完成させることではなく、発表する生徒と聴衆である生徒が協働して、ともに不祥事に関する共通認識を形成させながら、ともに問題解決をはかる討論・話し合いをすることにある。また、その過程で、公民としてのあるべき立場と行動を理解させ実感させることにある。

## B 発表時の要領

時間配分の目安を細かく明示する。その理由は、発表内容の比重のかけ方の目安を示すことによって、発表者の発表の目安と、資料の効果的なまとめ方・話し合いや、たたき台としての短い時間配分による安心感を持たせることにある。

### (3) 調査項目

調査項目を列挙し、提示し、そこに入手した記事情報を記入させることによって、情報を整理やすくするとともに、整理・仕分けする作業を通して、考えと意見を段階をおって、深めさせる。

### (4) 調査検討資料作成時の方法論的原則

各原則の背景としての考え方を次にあげる。

A 追加記入の原則の理由には、次のものがある。

- 1) 記事や考えの時間的プロセスが追えるため、事実確認や思考のプロセスが確認できる。
- 2) 生徒が時間のあるときに、追加メモ気分で記入するため、継続的な思考や記述、考えの深化をはかることができる。
- 3) この段階では論理一貫性は求めない。データーとして多くの気づきを記させることに主眼があるため、前後を考えずにどんどん追加記入させていく。

### B 記事の引用第1・私見第2の原則

- 1) 引用から始めれば書き続け易い。
- 2) まず第1に、多くの記事を正確にとらえさせて、自分の意見をいえるだけのデータを蓄積させる。
- 3) 途中ひらめいた考えは、貴重な独創的なものである場合があるので、そのまま記録させる。
- 4) 記事の引用と私見・自分の意見との区別をさせる。自分の意見は「～と思う」などと表示させる。

C 流れ図、関係図の用紙は1枚ずつ、他の調査項目リストなどのプリントは枚数無制限が原則

1) 流れ図と関係図は中央に書き、上下に余白をつくるために1枚とする。

余白があれば、余白を埋めたくなり、余白に書くべきものを考えるようになる。聴衆の生徒の参加による追加記入ができる。

- ・流れ図・上方の余白は、不祥事の予兆やヒヤリハットを追加記入できるようにとの意味である。

- ・関係図・より深い視点から仕組みなどを追加記入できるように

2) 他の調査項目などは、枚数無制限にし、記事情報を転記を容易にする。

枚数が増えると、やる気が出るとともにやった気が実感でき、達成感を感じさせることができる。

(5) 聴衆者（発表班以外の者）に対する指導内容・手順、のところで配慮したのは、下記のものである。

- ・質疑応答や討論に参加できるように、いろいろな設問を設けることによって、考え・意見を生みまとめる示唆を与える。

- ・公民としての資質を養成するため、社員としての現実的な実効性ある対応を考えさせるとともに、一生活者・市民として、生活の視点で自分の問題として、主体的に考えさせる問いかけを設定している。

## 8. おわりに

今回の授業実践における、今後の課題は、生徒による発表能力の修得、聴衆である生徒をより積極的に授業・話し合いに参加させ、多角的な視点で公民としての立場からの考えを深める方策を探ること、実効性ある対策案を組み立てる手順書を作成することなどがあげられる。今後とも、公民としての立場の視点で、主体的に学習できる方法論、手順書などを考えて行きたい。

注) 範例学習の方式には、一般的には次のような性質を総合した方式であると  
考えられている。

① すべての教材領域からできるだけ完全に教材を選ぶのではなくて、重要な教材を重点的に選択する。② 教材の選択には、学問体系によって系統的に抽出される。③ 教授に際しては、生徒自身で問題を解決するのを奨励する。④ ③の学習を通して、真の認識にまで高め広げる学習をする。⑤ そのため、従来の教材のわくをこえる場合も多い。(三枝孝弘『範例方式における授業の改造』明治図書 1965年)

参考文献：

- 文部科学省『高等学校学習指導要領』大蔵省印刷局 1999年  
文部科学省『高等学校学習指導要領解説・公民編』実教出版社 2006年  
加藤西郷・吉岡真佐樹『社会・地理・公民科教育論』高学出版 2002年  
日本カリキュラム学会『現代カリキュラム事典』ぎょうせい 2001年  
日本社会科教育学会『社会科教育事典』ぎょうせい 2000年  
尾鍋輝彦・富田武他編『歴史教育学事典』ぎょうせい 1980年  
文部省『高等学校公民指導資料 指導計画の作成と学習指導の工夫』文部省 1992年  
森秀夫『公民科教育法 改訂版』学芸図書 2002年  
三枝孝弘『範例方式における授業の改造』明治図書 1965年  
熊谷一乗『公民科教育』学文社 1992年  
社会認識教育学会『公民科教育』 1996年

(やまおか しょうきち 本学教授)